



強く感じたのは「多文化共生」というテーマです。地方でも外国の方と共に暮らすことは、今後の大きな課題であり魅力でもあります。これまでの作品でも扱ってきましたが、今回はこの街の日常に根づいた、楽しく暮らす姿を描きたいと思いました。

映画全体のイメージは、風や水、自然を感じる「スローライフ」に近いものです。ゆったりとした空気の中で人が暮らす感覚を映したいと考えました。現代の映像メディアは「目を引く刺激」に寄っていますが、劇場映画はSNSと同じ土俵には立てません。だからこそ、あえて真逆を目指しました。

食の描写にもこだわりました。鍵は「湯気」です。湯気は映像に写りにくいのですが、角度や光の入りに工夫して撮影しました。

市長 映画を拝見して、最初に抱いた印象は「とにかく美味しそう」でした。湯気まで意識さ

れていると知ると、あの食卓の場面もまた違って見えてきますね。

取材を支えた偶然とご縁

市長 吉野川市での思い出や印象をお聞かせください。

白羽 まず、吉野川市はとても広いという印象です。そして、地域を回る中で、人の温かさにも触れました。

板野町も含めて石垣のある家を探して車で走っていると、ある時、軽トラックが止まり「何か用ですか？」と声をかけてくださる方がいました。事情をお話すると、「今はブロッコリーの収穫で忙しいんですよ」と笑いながら畑に戻っていかれる。そんな偶然の積み重ねが取材を進めてくれました。

山川町の古民家も、偶然の出会いと皆さまのご厚意で撮影が実現しました。農家の皆さんと接して感じたのは、暮らしの豊かさです。仕事場も生活も、

すべてが画になる街だと思いました。市内の料理店に入ったとき、入り口近くのし字カウンターを見て「これは映画に使える」と思ったことも印象に残っています。

市長 私たちには当たり前の風景でも、監督の目を通すと映画のワンシーンになるのですね。市民の皆さんにとっても新鮮に映るはずです。

ベトナムでの熱い歓迎

市長 ベトナムの国際映画祭にご招待されたとのことですが、海外での反応はいかがでしたか。



白羽 海外での上映も印象的でした。ダナン・アジア映画祭(第3回)で上映した際、現地の方々にとっても喜んでいただきました。

「日本とベトナムの架け橋になる映画だ。ぜひベトナムでも全国公開を」と言っていたとき、質疑応答も大変盛り上がりました。翌日のクロージングでは、主演の中江有里さんがプレゼンターとして登壇し、作品への評価を実感しました。

市長 海外でも吉野川市の魅力が伝わったと聞くと、とても誇らしい気持ちになりますね。

この街の日常を映画にのせて

市長 最後に、市民の皆さんへのメッセージをお願いいたします。

白羽 この映画では、吉野川市に移住してきた方、昔からこの土地で暮らしている方、そして外国の方、それぞれの「本当の声」を拾い、映像化したつもりです。

市民の皆さんには、きっと身近に感じていただけるはずです。

また、この映画は大きな刺激や派手さがある作品ではありません。ゆっくりと生きること、自然に感謝すること、目に見えない豊かさを感じながら生きることの価値をお伝えしたいと思いました。何度見ても思いますが、味わいが増す映画になったと思います。どうぞ楽しんでください。

市長 見慣れた風景がたくさん出てきますので、吉野川市の方が見ると、きっと親しみを覚える映像だと思います。この街をぎゅっと凝縮した映画のように感じました。

白羽 「吉野川市の良いところ」を並べるだけではなく、映画ならではのテーマや空気感を感じていただるように撮りました。日常に近い内容ですが、映画らしい映画になっていると思います。移住や関係人口に関心のある方にとっても、暮らしのイメージが伝わる作品になったのでは

ないでしょうか。11月の公開に向けて、皆さんと一緒に盛り上げていければと思います。

用語説明

- ※1プロットライター…映画やドラマの物語の骨格(プロット)を作る専門職
- ※2サムネイル…動画の表紙となる小さな画像
- ※3インスタ…Instagram(インスタグラム)の略。写真・動画共有SNS
- ※4クロージング…映画祭の閉会式

